

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
47	長沢中学校	杉山 達郎

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
1. 自分を見つめよう 2. 心身を鍛えよう 3. 規律を守り、責任を果たそう 4. 創造的な精神をみがこう	次の4点を重点として、学校教育目標の達成に向けて全教職員で取り組む。 Ⅰ 確かな学力が身につく学習活動の推進 Ⅱ 安全で安心できる学校づくりの推進 Ⅲ 豊かな心づくりの推進 Ⅳ 地域・保護者との連携推進・学習環境の整備	学校経営目標の達成に向けて次の重点目標に取り組む。 Ⅰ-1 学習規律の確立 2 教師の授業力向上 3 読書体験の充実 Ⅱ-1 支援教育の推進 2 教育相談の充実 3 居場所となる学級・学校づくりの推進 Ⅲ-1 キャリア在り方生き方教育の推進 2 共生・共育の推進と充実 3 いじめや暴力をしない思いやりの心の育成 Ⅳ-1 地域・保護者と共に取り組む教育活動の展開 2 教育環境の整備 3 健康・安全教育の推進

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策	
Ⅰ 確かな学力が身につく学習活動の推進	1 学習規律の確立	①すべての学級で発表・聞く態度・意見交換など規律を徹底し、学びの環境を整える。 ・研究授業・GIGA端末の効果的活用(オンライン・教科) ・校内研修会・教科部会や学年会での情報交換	◎学校評価アンケートから、意欲的に授業に取り組む、知識や技能が身に付いていると感じている生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、学校生活に必要なルールやマナーを守って生活している生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから友達と話し合う機会や意見を発表する場面があると感じている生徒が多い。(GIGA端末の活用が進んでいる含む)	・教科部会や学年会で共通のルールや指導の在り方について年度初めに確認する。全教職員で共通指導(授業ガイダンス)を行う。 ・道徳、学級会、総合等の話し合い活動における共通ルールの構築。 ・生徒の学ぶ意欲を高める指導と評価の一体化を図る。→研修の充実
	2 教師の授業力の向上	②教師は「主体的で対話的な深い学び」を視点とした指導方法の工夫改善に努める。 ・各教科推進研究発表、地区研究授業への参加・OJT研修 ・外部講師による校内研究授業・教科部会での検討・管理職の指導助言・GIGA端末を使った意見の発表や交流	◎GIGA端末の活用等で生徒が主体的に考えさせる授業を行い、話し合ったり意見を発表したりする場面を設定している。 ●学校評価アンケートから、「授業が楽しい」「授業が面白い」と感じている生徒が減少。 ●研修時間の確保 ●個別のニーズへの対応	・学習指導要領の趣旨を理解し、評価と指導の一体化に向けた取組みを全教員で行う。 ・GIGA端末を活用して生徒主体の考えさせる授業を展開する→全教員の活用スキルの向上 ・各教科教育課程研究、推進発表、地区研等で学んできたことを共有する時間を設定する(教科会)。一人教科担当への支援。
	3 読書体験の充実	③GIGA端末の効果的な活用により、学習補償と理解促進に努めるとともに、本に親しむわかりやすい環境づくりを進めると共に読書体験を促進する。 ・図書室の環境整備・委員会活動の活性化 ・デジタル教科書等の活用・蔵書の充実 ・GIGA端末の教育活動全般での有効活用	◎学校評価アンケートから、GIGA端末の活用が進んでいると感じている生徒が多い。 ●学校評価アンケートから、教科書以外の本や新聞等を読ませて、学習に生かそうとする教員は多いが、生徒、保護者はそう感じていない。 ●図書室の蔵書→PTAとの連携 ●GIGA端末のより効果的な活用	・図書委員の活動を支援し、生徒のアイデアや働きかけで読書をする生徒を増やす取組みを促進する。 ・PTAと連携し、教職員が本の紹介を行い、その本を購入して図書室に閲覧する。また、学級文庫をつくり、身近なものにする。 ・朝読書の推進。
Ⅱ 安全で安心できる学校づくりの推進	1 支援教育の推進	①生徒一人ひとりの特性を把握し、個々のニーズに応じた発達を支援する。 ◎田園調布大学との連携→学生ボランティアの導入 ・学習室の設置・取出し、入込み授業・登校支援 ・外部機関との連携・ケース会議の充実・保護者とCOの面談	◎学校評価アンケートから生徒の多様性を尊重し、自他を思いやる人間関係づくりに努めている教員が多い。 ◎学習室担当者会で情報を共有し、支援の改善、適切な対応ができるようにしている。 ●特性の理解 ●登校支援→COによる家庭訪問	・支援を要する生徒へのアプローチと適切な対応。 ・支援会議の充実を図り、情報共有と適切な支援を迅速に行う。 ・コロナ不安への迅速な対応と人権への配慮→道徳・学活等
	2 教育相談の充実	②本人・保護者の思いに寄り添う教育相談を推進し、信頼関係を構築し、課題の未然防止と早期改善に努める。 ・教育相談期間の設定(年2回) ・相談内容の共有化と迅速な対応 ・学校生活アンケートの実施と分析と保管	◎学校評価アンケートから、先生や友達に助けってもらったり助けたりしている生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、困ったとき先生に相談する生徒が増えた。 ◎傾聴して、寄り添う教育相談の実施を心がけている教員が多い。 ●学校評価アンケートから、保護者の相談の満足度が低い。 ●相談できずにいる生徒や保護者への対応 ●相談時間の確保	・年度始めの早い時期に担任と相談時間を設ける。 ・相談期間でなくても、日常的にいつでも相談を受け、丁寧に対応することが本校の経営の柱であることを徹底する。 ・ソナーの意識を高く持ち、教職員から積極的に話しかけ信頼関係を構築する。
	3 居場所となる学級および学校づくりの推進	③すべての生徒の個性が尊重され、互いに認め合い助け合える学級づくりを行う。 ・自他を尊重する学級風土づくり・役割づくり・授業公開 ・研修会・道徳、総合の活用・学習室の活用 ・積極的な校則の見直し	◎学校評価アンケートから学校生活は楽しく充実していると考える生徒の割合が高い。 ◎学校評価アンケートからクラスの活動や行事に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ●学級での話し合い活動 ●積極的な校則の見直し ●学習室やSCの活用	・全教職員が生徒一人ひとりに達成感を持たせるよう、その主体的な活動を支えることを再確認する。 ・集団の中で役割を持たせてやりがいを持たせる指導の実施 ・生徒同士が関わって活動する場面を意識的に設定し、自他の尊重 ・いつでも、どこでも、誰にでも相談できる支援体制。

III 豊かな心づくりの推進	1	キャリア在り方生き方教育の推進	①キャリア在り方生き方教育の着実な実施と体験的な活動を通じ社会的自立に向け、必要な能力と態度を育成する。 ・キャリアの視点での授業 ・SDG'sの周知 ・進路説明会(オンライン) ・職業講話(1年) ・キッザニア職業学習(2年) ・キャリア在り方生き方ノート(パスポート)の活用	◎学校評価アンケートから、社会の中で自立するのに必要な力を身につけるよう意識している生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、挨拶をするように心がけている生徒が多い。 ●SDG'sを取り入れた授業 ●年間を通じたキャリア教育 ●保護者・外部の方との連携	・SDG'sの視点を持った授業 ・進路決選に向け、各学年ごとのキャリア教育のねらいを定めて、一貫した指導を行う。 ・キャリアノートを連携のツールとして、保護者と共通理解で指導を行う。 ・社会的マナーについては教職員が良き手本となる。
	2	共生*共育プログラムの活用	②効果測定を実施し、生徒の変容を的確に捉え、学級経営の改善を図ると共に共感的な人間関係の構築を目指す。 ・効果測定の実施(研究協力校) ・共生*共育プログラム研修 ・学年会で共有とケース検討	◎学校評価アンケートから、学校生活の中で友達とより良い関係を作ろうとしている生徒が多い。 ◎教員アンケートから、全学年で効果測定の結果を生徒理解に生かし、学級や学年経営の改善に努めている。 ●ケース検討の時間の確保 ●効果測定結果の効果的な活用 ●外部講師による研修の実施	・学年会で効果測定の結果や共生*共育プログラムの効果について協議する時間を確保する。 ・年6時間の共生*共育プログラム実施計画を策定し、必要なスキルを着実に伸ばす指導を行う。来年度は7時間(SOS)の中で。 ・外部講師による研修を実施し、効果測定の結果取り方や活かし方を学ぶ。(ケース検討への助言も検討)
	3	いじめを許さない心の育成と体制の構築	③生徒の実態把握に努め、自己肯定感を高める関わりをするとともに変化を見逃さない丁寧な関わりを行う。 ・教育相談期間の設定 ・学校生活アンケートの実施 ・早期発見と迅速な対応 ・人権教育の充実	◎学校評価アンケートから、悪口を言ったりいじめをせず、友達の良いところを認めることができる生徒の割合が高い。 ◎学校生活アンケートから、先生に自分は理解され、自信をもって活動に取り組めると考える生徒が多い。 ●いじめはいつでも起こるという危機意識を常に持ち、ソナーの意識で積極的に生徒とかかわる。 ●教職員の丁寧な言動 ●教職員間の情報交換の時間	・日常から生徒の変化を積極的に察知し、学校として迅速に対応する。 ・個人で判断せず、必ず報告してチームで考え対応することを徹底する。 ・記録をとること(フォーマットを作り正確に)と経過を追うことを指導の基本とする。 ・人権にかかわる課題については、本人・保護者の困り感に対し関係機関と連携して支える。
IV 地域・保護者との連携	1	地域・保護者と共に取組む教育活動の推進	①積極的に学校の取組を発信し、家庭・地域・小学校等との連携を促進することで、一体化して継続性のある教育活動を展開する。 ・学校便り・学級だより・ホームページ・メール配信 ・授業参観・オープンスクール・各種行事参観・各種説明会 ・ためぎチャンネル・ためぎフェスティバル・地域教育会議・ZoomやYouTubeの配信 ・小中連携・学校教育推進会議・PTA運営会議	◎学校評価アンケートから、お便りやHP等で学校からの連絡等必要な情報を知ることができると考えている生徒が多い。 ●学校評価アンケートから、挨拶を交わす等日常的に地域の人とつながっていると考える生徒、保護者の割合が低い。(教職員も) ●コロナの影響で地域での活動が少なかった。(職場体験等) ●小中連携の中学生体験ができなかった。	・学校と保護者、地域が協働して子どもを支えることの主旨に基づき、全教職員が日頃から良好な関係づくりに努める。 ・休日や時間外の地域行事や会議への参加については、働き方改革の視点から調整する必要がある。 ・継続して実施していくために、やり方を検討していく必要がある。
	2	教育環境の整備	②生徒の安全を保障するため、防犯や経年劣化に伴う不具合等の早期改善に努める。 ・学校巡回による破損箇所の把握と早期修繕 ・所管課との連携 ・体育館の大規模改修(今年度)	◎学校評価アンケートから、学校が安全で心地よい環境づくりに向けて努力していると考えている生徒、保護者が多い。 ◎教職員アンケートから、日々巡回や掃除の徹底など環境整備に意欲的に取り組んでいる教職員が多い。 ●調理室と理科室のエアコン設置 ●教室の不足(学習室、別室) ●校内映像配信の不具合への対応 ●LGBTQ対応のトイレ設備	・校内外の点検巡回を丁寧に、教室等の不具合について迅速に対応し、校舎内外の安全と学びやすい環境づくりに努める。 ・環境整備推進室との連携。
	3	健康・安全教育の推進	③健康で安全に生活するために『新しい生活様式』の定着に努める。学校が安定的に教育活動に専念できる環境を整える。 ・新しい生活様式の定着・教職員による消毒 ・心肺蘇生等研修・性にかかわる講演会・活動方針に沿った部活動の運営・行事や会議等の計画の見直し・避難訓練	◎学校評価アンケートから、毎日の検温、手洗いやうがいを行うなど『新しい生活様式』を実行している生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、部活動に安心して参加できて熱心に取り組んでいる生徒が多い。 ◎体育館改修工事に伴い、小学校、校外施設を利用した活動を行った。 ●作業や運動中の安全指導の徹底 ●SNSとの適切な関わり方の研修(生徒・教員) ●部活動の保護者、顧問の連携	・SNSに適切な使用方法に関する最新の情報を教職員・保護者・地域の大人が研修する機会をつくる。 ・道具の扱いに慣れない生徒にも安全に活動ができるよう実態に即した、指導計画と声かけを行う。 ・避難所運営に関するルールやマニュアルを再点検し、非常時に適切に行動できるよう備える。

学校関係者の評価

今年度のまとめ・次年度へ向けて

【良い点】
◎コロナ感染防止対策を徹底し、できるだけ通常の教育活動を実施することができたのではないかと。◎体育祭は、有観客で実施し、PTA校外員で見学場所を巡回したが、保護者がスムーズに動いてくれて助かった。◎体育館改修工事では、校庭の縮小、車の出入り、登校の動線等生徒の安全に配慮し、会議、検討を重ね円滑に工事を進めることができた。◎修学旅行や自然教室を実施し、集団の絆づくりができた。◎合唱コンクール、飛翔祭は、体育館改修工事に伴い麻生市民館で有観客(入場制限あり)で行うことができた。◎あいさつやマナーといった規律正しい生徒が多い。◎子ども文化センターも子どもの居場所として活用されている。◎PTA役員が中心となり、PTAの適正化に着手し、PTA組織改革を行った。◎地域教育会議によるためぎフェスティバルを3年ぶりに開催し、生徒が地域とのつながりをとりもどした。◎学校や、PTAの情報をホームページやミマモルメを活用して発信することができた。

【改善を要する点】
●小中連携事業(小学生の中学生体験等)の復活。●新入生保護者説明会の時期を早める。●部活動地域意向に伴う準備を進める。●ためぎフェスティバルを継続実施していくための検討。

今年度はコロナ感染拡大防止対策を講じたうえでできるだけ通常の教育活動を実施していくことを念頭に置いて学校運営に取り組んできた。感染対策を行った上で学力の補償と豊かな心の育成を目指し、教職員がチームで目標達成に向け邁進してきた。また、一人ひとりを大切に「支援教育」を核とした学校経営のもと、多様な教育的ニーズに加え、コロナを要因とする不適応にも、オンラインによる指導等で丁寧に対応した。SNSとの適切な関わり等教育公務員としてのモラルについては、次年度以降も校内で周知徹底を図る。今年度、職員会議、生徒総会、学校評価アンケートの実施等ペーパーレス化を推進した。次年度も継続したい。教職員アンケートを実施し学校経営の2本の柱「一人ひとりを大切にしたい学校」「安全で安心できる学校」の実現に向けて取組み成果と課題を認識して次年度は次の取組を進めていく。
■一人ひとりを大切にしたい学校づくり＝支援教育の推進
・支援教育の充実→田園調布大学との連携拡大・学習室の効果的な運営と個々のニーズに応じた適切な支援
■安全で安心できる学校づくりの推進
・新年度すぐの教育相談・生徒、保護者に丁寧に寄り添う教育相談の充実・SNS研修の実施・地域との連携・ポロシャツの導入・SOSの出し方、受け止め方の授業実施